

平成 27 度 岐阜工業高等専門学校シラバス						
教科目名	都市形成論		担当教員	鶴田佳子		
学年学科	2 年次 建設工学専攻		後期	選択	2 単位	
学習・教育目標	(D-3 環境系 100%)		JABEE 基準 1 (1) : (d)			
<p>現代都市の成立過程および、それと密接に関わってきた都市計画の仕組みや問題点を理解することによって、各種建造物が都市の主要な構成要素として、都市空間の中でどのような社会的意味を持つかを理解し、建設技術者として必要な社会的視野を身につける。具体的には以下の項目を目標とする。</p> <p>①都市計画制度の変遷との関わりの中で現代都市の成立過程を理解する。          ②現代都市が抱えている問題とそれらの問題を解決するための考え方を理解する。          ③建設技術者としての立場から、都市課題を捉え、都市問題解決に向けて自ら思考する能力を身につける</p>			<p><b>成績評価の方法：</b>          平常試験 100 点＋レポート 20 点程度＋予習・プレゼンテーション評価 30 点程度＋期末試験 50 点とし、総得点率 (%) によって成績評価を行なう。なお、成績評価に教室外学修の内容は含まれる。</p> <p><b>達成度評価の基準：</b>          なお成績評価の重みは、①：②と③＝5：5 する。          ①日本の都市計画制度の変遷および都市計画制度上の問題点に関する問題がほぼ 6 割以上できる。          ②現代都市問題とそれを解決するための考え方を 6 割以上の完成度でまとめることができる。          ③都市問題解決に向けて、社会的および客観的視点から自らの意見を 6 割以上の完成度でまとめることができる。</p>			
<p>授業の進め方とアドバイス：1～8 回では、近代以降の都市形成過程に関する授業を行い、9 回でそれまでの内容を総括する。10 回以降では現代都市が抱えている問題およびそれらの問題を解決するための考え方について、テーマ別（交通・防災・景観・緑地・住民参加等）に学習を行い、各自担当箇所についてプレゼンテーションを行う。</p>						
<p>教科書および参考書：初めて学ぶ都市計画（饗庭伸 他 市ヶ谷出版社）</p>						
授業の概要と予定：前期			教室外学修	AL のレベル		
第 1 回：	日本の近代都市の成立過程 ー 欧風化政策期		都市計画の最近の動向に関するレポート作成。			
第 2 回：	日本の近代都市の成立過程 ー 市区改正ー		欧風化政策と市区改正計画の特徴とその歴史的意義をまとめる。			
第 3 回：	日本の近代都市の成立過程 ー 旧都市計画法成立期ー		都市計画の最近の動向に関するレポート作成			
第 4 回：	〃		旧都市計画法で導入された近代都市計画技術についてまとめる。			
第 5 回：	日本の近代都市の成立過程 ー 戦中都市計画期ー		都市計画の最近の動向に関するレポート作成			
第 6 回：	日本の近代都市の成立過程 ー 新都市計画法成立期ー		都市計画制度の内容とその問題点をまとめる。			
第 7 回：	日本の近代都市の成立過程 ー 都市計画法改正の流れ		都市計画の最近の動向に関するレポート作成			
第 8 回：	日本の近代都市の成立過程 ー 都市計画法改正の流れ		日本の近代都市成立過程について復習する。			
第 9 回：	都市計画制度の変遷と都市の成立過程のまとめ		教科書 第 5 講を予習する。			
第 10 回：	交通：道路交通と車社会／公共交通機関		教科書 第 8 講を予習する。	A		
第 11 回：	防災：都市災害／防災まちづくり		教科書 第 9 講を予習する。	A		
第 12 回：	景観：都市景観／景観まちづくり		教科書 第 6 講を予習する。	A		
第 13 回：	緑地：緑地の機能と効果／公園・緑地計画		教科書 第 10 講を予習する。	A		
第 14 回：	住民参加：住民との協働まちづくり／計画のプロセス		教科書 第 12 講を予習する。	A		
第 15 回：	縮退都市計画：コンパクトシティ／リバーススプロール		第 10 回～15 回の内容を復習する。	A		
期末試験			ー			
第 16 回：	フォローアップ（期末試験の解答の解説など）		ー			

評価（ルーブリック）

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	日本の都市計画制度の変遷および都市計画制度上の問題点に関する問題が 8 割以上解ける。	日本の都市計画制度の変遷および都市計画制度上の問題点に関する問題が 6 割以上解ける。	日本の都市計画制度の変遷および都市計画制度上の問題点に関する問題が解けない。
②	現代都市問題とそれを解決するための考え方を 8 割以上の完成度でまとめることができる。	現代都市問題とそれを解決するための考え方を 6 割以上の完成度でまとめることができる。	現代都市問題とそれを解決するための考え方をまとめることができない。
③	都市問題解決に向けて、社会的および客観的視点から自らの意見を 8 割以上の完成度でまとめることができる	都市問題解決に向けて、社会的および客観的視点から自らの意見を 6 割以上の完成度でまとめることができる	都市問題解決に向けて、社会的および客観的視点から自らの意見をまとめることができない。